



あけぼのつうしん

No.80

令和4（2022）年9月2日発行

〔目次〕

■ 注目！ notable case ～道内図書館（室）トピックス～	
○ 石狩市民図書館 企画展「学芸員の本棚」	1
○ 豊浦町中央公民館図書室 とようら町人（まちびと）リレー	2
○ 北広島市図書館 副読本の電子化による新たな授業手法	3
○ 美瑛町図書館 誕生！図書館のマスコットキャラクター	3
○ 新十津川町図書館 コロナ禍を“逆手”にとって	4
■ 《寄稿》子母澤寛資料の収集と研究	
前函館市中央図書館長 丹羽秀人	6
■ 令和4年度市町村活動支援事業レポート	
【運営相談・派遣】登別市「学校図書館で映えるPOPの作り方」	7
【運営相談・派遣】滝川市「レファレンスサービスのスキルアップ」	8
【運営相談・派遣】美瑛市「地域資料のS.H.K.」	8
【運営相談・派遣】栗山町「だれもがみんな利用しやすい図書館へ」	8
【重点運営支援】上砂川町「町民センター図書室の環境改善」	9
■ 道内図書館キャラクター紹介！ Vol.3	10
■ 特集：こどもの読書週間の行事から	11
■ お知らせ	
○ 2022年春 こどもの読書週間の主な講師等一覧	15
○ 令和4年度（2022年度）下半期 大会・研修会等情報	16
○ 『百貨店！』まち文化研究所が自費出版	17
○ 『北海道の図書館員が薦めるブックガイド』来春刊行！	17
○ 支援活動用資料の譲渡について	17
■ 編集後記	18



北海道立図書館

■注目！ notable case ～道内図書館(室)トピックス～

Case 1

企画展示「学芸員の本棚」 石狩市民図書館

石狩市民図書館では、展示を通じて北海道の学芸員や学芸員の仕事を広めていきたいと、文化財課職員からの協力依頼により、北海道博物館協会学芸職員部会が開催したオンラインイベント「学芸員の本棚からオススメの一冊」をもとに「学芸員の本棚」と題して、令和4年4月20日(水)～5月8日(日)の期間、企画展示を行いました。

展示した資料は、7名の学芸員が紹介した博物館の仕事や、自然・歴史など専門分野に関するイチ推し本とその関連資料を中心に、司書の目でピックアップした、各専門分野や、博物館、学芸員に関する資料です。

学芸員が記した本の紹介文は、「持ち帰り用資料」としても備え、学芸員のプロフィールや写真もパネルで掲示しました。

石狩市民図書館と資料館（いしかり砂丘の風資料館）は、普段からお互いに声を掛け合い連携に努めています。（情報提供：石狩市民図書館 吉岡律子）

※ 関連 HP：「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>



≪ 7名の学芸員の方が紹介した本 ≫

1	クジラのおなかに入ったら	松田純佳著	ナツメ社	2021	紹介者：いしかり砂丘の風資料館 志賀健司
2	昆虫考古学	小畑弘己著	KADOKAWA	2018	紹介者：福島町チロップ館 鈴木志穂
3	電柱鳥類学 スズメはどこに止まっている？(岩波科学ライブラリー)	三上修著	岩波書店	2020	紹介者：浦幌町立博物館 持田誠
4	謎の十字架 メトロポリタン美術館はいかにして世紀の秘宝を得たか	トマス・ホーヴィング著 田中靖訳	文芸春秋	1986	紹介者：北海道立北方民族博物館 笹倉いる美
5	永遠の森 (博物館惑星 [1])	菅浩江著	早川書房	2000	紹介者：釧路市立博物館 加藤ゆき恵
6	不見(みず)の月 (博物館惑星 2)	菅浩江著	早川書房	2019	紹介者：釧路市立博物館 加藤ゆき恵
7	歓喜の歌 (博物館惑星 3)	菅浩江著	早川書房	2020	紹介者：釧路市立博物館 加藤ゆき恵
8	はじめて学ぶ考古学 (有斐閣アルマInterest)	佐々木憲一〔ほか〕著	有斐閣	2011	紹介者：あさぶ文化遺産調査プロジェクト 石井淳平
9	一目で伝わる構図とレイアウト 一枚もののチラシデザイン特集		パイインターナショナル	2014	紹介者：八雲町立郷土資料館・木彫り熊資料館 大谷茂之

※ 排列は書名の五十音順（ただし、5～7はシリーズ名）とした。

Case2 とようら町人（まちびと）リレー 豊浦町中央公民館図書室

豊浦町中央公民館図書室では、『広報とようら』令和3年7月号（No. 729）から、図書室に割り当てられたページを、「とようら町人リレー」と題して、町民へのインタビューによる「本の話」をリレー形式で発信しています。今回、担当者からその取組についてコメントをいただきました。

町 HP> 広報とようら

> 生涯学習課だより から閲覧



【弱みは強み。人口が少ないことも強みに。】

せっかくの全戸に配布される広報。それを最大限に活用するため“図書室のページで手を止めてもらう”施策を町民目線で考えました。

豊浦町は「どここのだれだれ」で通じてしまう規模（人口約 3,700 人）の町。辿り着いた答えは、「知ってる人が書いてる」と「知ってる人が出ている」の2つでした。この答えをもとに、「多くの町の人と出会い、広報の話をすること」、「町の人を登場させる誌面にする」と「町の人を登場させる誌面にする」とを企画しました。

【雑だけど大切な『雑談』】

いつも企画が形になるのは雑談からです。「3,700 人って頑張れば全員に会えそうな数ですよ。印鑑スタンプラリーとかどうですか？」こんな他愛もない会話から町人リレーは生まれました。思いつきのレベルで他の人にも話をすると、一人では生まれないアイデアが出てきたり、広がったり、実施に向けて踏ん切りがつかない時があります。

また、普段ひとりぼっちの運営（＝図書室に関わる人は他にもいますが、ワンポジションのため基本的に一人で図書室にいる）なので、教育委員会や公民館など、周りの人との雑談の時間を失くさないよう、ちょっとだけ心がけています。（ひとりぼっちの運営に淋しさを感じる時は、他施設の同じような立場の皆さんを、勝手に同志として想っています。）

【アナログの効果は……】

さて、“町人（まちびと）”は8月号で13人目となります。成果はというと……。

デジタルなら閲覧数が丸わかりですが、広報だとクチコミでしか測れません。「広報見てるよ」とか「面白いことやってるね!」とか声をかけてくれる人はいても、すぐに来室者数は増えてくれません。けれども、“図書室”の存在感を発揮すること、みなさんの頭の中に“図書室”の文字が残ることを心がけ、続けることで効果がじわじわ出てくると信じています。

【町民を知ると町で働く意欲になる】

この企画は、知らない分野と出会うことが何より好きなので楽しく継続できています。

また、町に面白い人が沢山いるとわかると町に誇りを持てるようになり、地域のために働く意欲に繋がる気がします。ただ最近は、みなさんの話が面白すぎてついつい長くなってしまい…お知らせスペースを圧迫しそうです。こぼれ話も蓄積されたので、いずれ一冊にまとめて図書室に展示したいと野望を抱いています。（情報提供：豊浦町地域おこし協力隊 木村美朝）

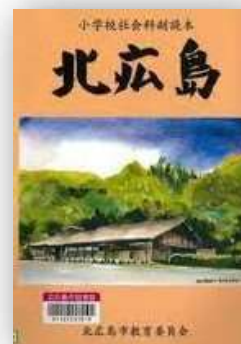


図書室に「まとめのリレー」を掲示。ここから話題が生まれることも。

Case3 副読本の電子化による新たな授業手法

北広島市図書館

北広島市では、令和元（2019）年に「小学校社会科副読本・北広島」を電子化するとともに、教材作成ツール（k-plat）を実装し、新たな学習手法による郷土学習授業の展開を進めています。近年、小・中学校の児童・生徒には個々にタブレット等の端末が配置され ICT 教育の環境が整備されてきていますが、それを活用した授業の実践事例がいくつもみられますが、北広島市の取組には、次のような特徴があります。



- ・ 電子版副読本に教員や図書館の司書等が提供する資料やウェブページなどを張り付け、同一画面に呼び出すことができる。
- ・ 自作した資料データや他の教員等が作成したファイルを教員間で共有できる。

このような機能により、「教員のみならず市図書館・学校図書館の司書が学習に有効な資料やサイトの情報を提供することで、学校や地域の図書館を有効に利活用した授業を促すことができ、かつ、地域の学芸員、市広報担当などの地域情報のエキスパートが、自らの専門的知識や経験を基とした情報資源を提供することで、教員が行う授業をより密度の高い、生きた授業へと進化させることを可能にしている。」、また「電子版副読本と教材作成ツールというプラットフォームができたことで、教員間での情報交換はもとより、学校図書館・地域の専門施設間との地域資料や学習情報のやり取りが、よりスムーズになり、かつ開かれたものとなった。」としています。

なお、電子版副読本活用の実践的調査研究については、『報告書 電子版「小学校社会科副読本・北広島」活用の実践的調査研究』（PDF 48p）としてウェブ上に公開されています。

* 引用文献：新谷良文，“学校教材としての地域資料のデジタル化”，地域資料のアーカイブ戦略，日本図書館協会，2021，p.42-51.（JLA 図書館実践シリーズ 46）。

報告書電子版「小学校社会科副読本・北広島」活用の実践的調査研究



参照 Web サイト：株式会社図書館総合研究所 「政策を見る眼」増刊号 <2020.9.17>



Case4 誕生！図書館のマスコットキャラクター

美瑛町図書館

美瑛町図書館では、令和 3 年度、新型コロナウイルス予防対策として、図書館に人を集めて行うイベントは全面中止となりました。そこで、「人を集めず」行える催しは何かないかとアイデアを出し合い、マスコットキャラクターの公募を企画しました。本誌でも「道内図書館キャラクター紹介！」として、昨年度発行した No.78、79 で扱い、今号でも第 3 弾として紹介します。この度、美瑛町図書館からマスコットキャラクターの公募から誕生までの経緯について情報提供いただきました。

まず、応募者は幼児から小学生が中心になるだろうと考え、募集の対象は町内在住者としました。館内ポスターの掲示・チラシの配布・町広報・図書館 HP での周知を行い、令和 3 年 4 月 17 日～7 月 17 日を募集期間としました。応募作品は 8 月 8 日～9 月 29 日に館内に掲示し、来館者に「いちばん好きなキャラクター」を投票してもらう形をとりました。

応募作品数は 41 点、総投票数 101 票の中、20 票を得て「よもーか」に決定しました。



「よもーか」

「よもーか」は、“キャラクターの身体そのものが美瑛の丘”という大変ユニークなモチーフながら、親しみやすいフォルムと色合いで、投票期間中から子どもたちに圧倒的な支持を得ていた作品です。(2 位となった作品とは 10 票の差がありました)

作者は町在住の 20 代の女性です。(イラストのプロもしくはそれに準ずる能力がある方ではないかと思われます。)
「よもーか」という名づけも作者本人によるものです。

無事決定したマスコットキャラクターは、令和 4 年の広報 6 月号で「図書館移転開館 10 周年記念」と銘打って初お披露目し、好意的な反響が寄せられました。

中には、「よもーか」の消しゴムハンコを手づくりして寄贈してくださる方もありました。いただいた消しゴムハンコは、ブックスタート事業で配布している絵本に押印しています。

今後は、各イベント・ポスター等に活用し、図書館により親しんでもらえるマスコットキャラクターとなりますよう、スタッフ一同願っています。(情報提供：美瑛町図書館 川嶋祐司)



消しゴムハンコ

Case5 コロナ禍を“逆手”にとって

新十津川町図書館

なかなか終息とはいかない新型コロナウイルスに、図書館でもイベントの延期、縮小、中止が余儀ないのですが、その中でも、試行錯誤しながら開催を行った行事について、新十津川町図書館から情報提供いただきました。

その1 やればできる！『図書館コンサート』



コロナ禍が始まった令和 2 年は、特にライブやカラオケなど、“声を発する”イベントには厳しい目が向けられている時期でしたので、果たしてやっていいのか、やれるだろうかと悩みました。ここで一番の問題は“三密”の対応です。図書館で設定した今までの会場（ビデオルームやギャラリー）では、演奏者との距離や客席の間隔をとる必要があるため、多くの人を入れるのは難しい…。

それならばと、思いついたのが、図書館の閲覧フロアを会場にすること。書架の間にステージと客席を作りました。(か弱き女性の多い職場ですので、重い書架を移動させるのが大仕事！)

1年目は「ジャズ・サクソコンサート」、2年目は「クラシックコンサート」、3年目の今年には「アコースティック・ライブ」を行いました。ジャンルは様々ですが、年に1度、気軽に楽しめるコンサートとして定着していることをあらためて実感しました。

その2 静かにひそかに…『こわ〜いおはなし会』



「こわ〜いおはなし会」は青空図書館と1年交代で行っている夏の特別行事です。

こちらもコロナ禍が始まった令和2年の開催は無理と最初思いました。なにせ毎回子どもたちは会場びっしりと身を寄せ合って聞くのが醍醐味。

そこで、回数を4回公演とし、人数も各回十数人限定、時間短縮としました。参加は、夏休み前に募集し、“選ばれし勇者”たちには、夏休み明けに“招待状”(血の滴るおどろおどろしいカード)を渡し、当日は「しゃべってはいけない」

「こどもだけで聞くこと」「くっついてはいけない」と、強面の案内人(ボランティアの男性二人)にアマビエ(館長)といった怖さを盛り上げる演出もし、楽しく怖がっていただきました。

(今年のこわいおはなし会は、人数を限定しますが、以前の形に戻して開催します。)



その3 人が集ってこそその?『古本リサイクル市』



最後に失敗例をひとつ。毎年多くの人を訪れる「古本リサイクル市」。令和2年度は、5日間、入場を制限し会場も縮小、提供冊数も少なめにして開催しました。令和3年度は例年どおりの会場・提供冊数に戻して開催しようと計画していましたが、臨時休館明け直後の時期となり、「古本リサイクル市」自体は行わず、1カ月ほど「古本コーナー」をロビーに設け代替えとしました。提供冊数も少しずつ、PRも大きくはしませんでした。持ち帰り冊数は、古本市に比べ、かなり少ない結果となりました。

1日限り、多くの人が集まる中で掘り出し物を探すという“イベント感”が大切なのだと思います。さて、今年はどうするか、模索検討中です!

大変なことも多いですが、例年どおり当たり前に行事ができることのありがたさとともに、今一度行事の在り方を見直し、新しい発想も生まれるきっかけとなりました。まさに“怪我の功名”とも言えるかもしれません。(情報提供:新十津川町図書館 高宮みず恵)

勤務した図書館における資料収集・レファレンスサービスをきっかけに、作家・子母澤寛の研究をはじめ、現在も精力的に論文等を執筆しながら、講演活動をされている前函館市中央図書館長の丹羽秀人さんに御寄稿いただきました。

■《寄稿》 子母澤寛資料の収集と研究

前函館市中央図書館長 丹羽 秀人

公立図書館にとって、地元出身、地元に関連した作家の資料収集は使命の一つだと私は思っている。私が携わった石狩市民図書館の開館時、絶版品切れが多く悩まされた、石狩市にとっても最も重要な作家子母澤寛の本の多くが、当時既に手に入らなくなっていた。流通していたのは文庫を中心に十数冊程度で、絶版になっていた講談社の子母澤寛全集は古書店から購入した。私はしばらく市長部局に異動になって、図書館に戻った時、数年後に寛が生誕 120 年を迎えることに気づいた。記念企画をしたいと思っても、全集と若干の本では何もできない。地元の郷土史家に相談し、多くの初版本を含む 30 冊以上の単行本を寄贈してもらった。札幌の古書店サッポロ堂、弘南堂には子母澤寛に関わるものを集めてほしいと依頼すると、自筆原稿、書簡、色紙などを納品してくれた。このような資料は、特定の作家のもの以外は案外安く、図書館の資料費でも買える値段なのだ。そして、子母澤寛生誕 120 年の 2012 年、出生日の 2 月 1 日を挟む 5 カ月間記念展示を行ない、私が解説を書いた。



石狩市民図書館における講演会(2022年)の告知ポスター

子母澤寛は、明治維新の研究家には重要な存在であるためか、図書館には年数回、寛に関するレファレンスがある。時には東京からも研究者がやって来た。その度に答えていくうちに、私も寛について詳しくなった。終戦後まもない九州の新聞に、寛の知られていない作品が載っていることが見つかり、九州の新聞社からコメントを求められたこともあった。

サッポロ堂では寛の作品か真偽がわからない原稿が見つかり、私に判断を依頼してきた。それについては、新聞、雑誌で書いた。また、寛についての講演を頼まれることも増えて来て、石狩市の友好都市石川県の輪島市で、寛について講演を行ったこともあった。

2018 年道立文学館が寛没後 50 年記念展を開催したが、私は企画段階から相談を受けて、図録の寄稿と講演も行ない、札幌以外 3 か所でも講演した。2021 年は朝日新聞に寛の伝記を 11 回連載した。2022 年は寛生誕 130 年記念講演を函館市、東京都大田区、札幌市、苫小牧市、石狩市、釧路市の図書館で行った。

研究されている作家は限られている。評伝の出ていない地元の作家は、図書館員(司書)が研究して紹介することが必要ではないだろうか。作家研究をする司書が全国にいと、文学研究が一段と進むことは間違いない。そして、地元で盛り上がりを見せれば、地域起こしに一役買うこともできる。

■ 令和4年度市町村活動支援事業レポート

【運営相談・派遣】 登別市「学校図書館で映えるPOPの作り方」

6月24日（金）、登別市で行われた令和4年度学校図書担当者・図書ボランティア連絡会議で、学校図書館のPOP作りをテーマに講義（運営相談・派遣）を実施しました。当日は市内小中学校の図書担当教諭や学校司書、図書ボランティア、市立図書館職員など30名近くが集まり、POPの役割や作り方の基本・工夫について耳を傾けていただきました。

会場（登別市民会館）の一角には、講義の参考資料や市立図書館おすすめの関連図書を並べていただき、出席者が直接手に取って見ている姿もありました。オンラインでは得られない気付きを、それぞれの職場に持ち帰っていただけたと思います。



ここにも見つけた！ POP作り！ ～子どもの読書週間から～

千歳市立図書館

「もう一冊読もう～次は何読む？～」



好きな本を1冊読み、その中で気に入ったことに関する本を2冊目に読み、読んだ本について鯉のぼりを形どった用紙に記載して館内展示

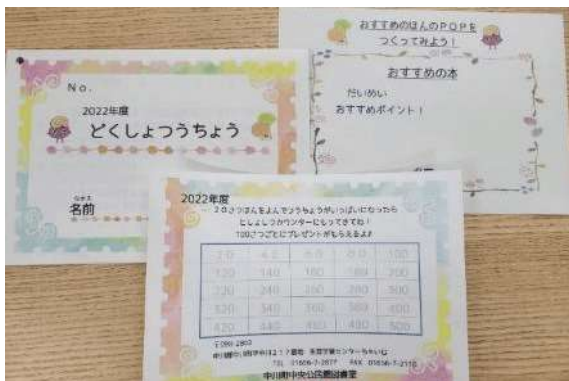
市立富良野図書館

「しおりPOPつき！絵本のかしだし」



スタッフが選んだ60冊の絵本それぞれに、おすすめコメントやイラストを手書きした「しおりPOP」をはさんで貸出し。しおりPOPは返さなくてOK！

中川町中央公民館図書室「どくしょつうちょう」



図書室で借りた本を読み、題名と一言感想を記入してもらおう。20冊（通帳1冊分）で1枚のPOPを書いてもらう。

上士幌町図書館「図書館で本の帯を作ろう」



あらかじめ職員が作成した本の帯を作成例として展示して、利用者に本の帯の作成・応募を呼びかけ、応募作品も展示する。

【運営相談・派遣】 滝川市「レファレンスサービスのスキルアップ」

6月24日（金）、滝川市立図書館に伺い、「レファレンスサービスのスキルアップ」と題して職員研修（運営相談・派遣）を実施しました。講義は、次の3部構成でお話しました。

- 1 レファレンスサービスのあり方とインタビューの姿勢
- 2 調査の実際
- 3 事前課題の解説と過去の事例から

1では、利用者対応について、接遇マナーを踏まえた留意事項等を具体的に講義しました。2については、所蔵調査・所在（所蔵館）調査、事実・事項調査及び回答記録の留意事項について参考資料を提示しました。3では、1か月前に送付した「事前課題」について、滝川市立図書館の方に発表していただいた後、調査の手順・留意点等を説明しました。

また、当館におけるレファレンス事例を紹介し、ケース毎の視点と調査から回答に至る経過について詳細に解説しました。



【運営相談・派遣】 美唄市「地域資料のS.H.K.」

6月30日（木）、美唄市立図書館に伺い、地域資料の収集・保存・活用について職員研修（運営相談・派遣）を実施しました。美唄市からは、昨年度開催した「全道図書館専門研修〈サービス（地域資料）〉」に準じた内容でという希望を受け、当館が所蔵する美唄市関係の資料も紹介しながら、整理方法の工夫や住民との協働、地域情報としての発信まで、具体的な事例を紹介しながら講義を進めました。

最後に、美唄市立図書館の郷土資料室を見学しましたが、美唄市の郷土資料・行政資料をはじめ、空知管内や北海道全域にわたる資料がしっかり収集されていることを確認しました。



【運営相談・派遣】 栗山町「だれもがみんな利用しやすい図書館へ」



7月26日（火）栗山町図書館に伺い、「だれもがみんな利用しやすい図書館へ」と題して職員研修（運営相談・派遣）を実施しました。

講義は次の3部構成でお話しました。

- 1 レファレンス・インタビューの姿勢
- 2 図書館における合理的配慮
- 3 こんなとき、どうする

1では、レファレンスサービスの定義・あり方を確認した後、レファレンス事務要領の必要性和留

意点を提示し、続けてレファレンス・インタビューの姿勢について講義しました。2では、日本図書館協会発行の「みんなで考える、こんなときどうするの？ ―図書館における危機安全管理マニュアル作成の手引き」を基に、ケース毎の留意点についてお話ししました。3では、事前に提供していただいた栗山町図書館における対応に苦慮した14の事例について、今後の対応や改善策を共に考えました。

最後に、公立図書館の利用（者）が多様化する中、図書館の目的である「すべての人にすべての図書館サービス・資料の提供」を再確認し、そのためには、要領・マニュアルの作成、研修・訓練の実施、情報共有のルール化、そして個々のコミュニケーションスキルの向上が重要であるとお話ししました。

利用者対応は、杓子定規にならずに丁寧に聞き取り、お互いを理解し合い、だれもが気持ちよく利用できる環境づくりが求められます。

【重点運営支援】 上砂川町「町民センター図書室の環境改善」

重点運営支援事業は、図書室の活性化を図ろうとする市町村に対し、年間を通して重点的な支援を行う事業です。新刊書を毎月約100冊ずつ、年間で合計約800冊貸し出すほか、運営相談等を実施します。

令和4年度は上砂川町民センター図書室を対象とし、5月27日（金）に当課職員2名が訪問して運営相談を行いました。当館から重点運営支援事業の流れと年間計画を立てていくことを説明し、上砂川町からは、貸し出す新刊書の要望や、図書室の現在の状況や図書室の広報の現状をうかがいました。

図書室における前年度の分類別資料受入状況から、文学と児童書のほかに、実用書の充実を図る必要があることとお話ししました。そのために、道立図書館が貸し出す新刊書の中から実用書をPRしたり、町民センターで行われる各種大人向け講座やワークショップで関連する実用書を展示するなどして需要をつかみ、今後の資料整備につなげるよう助言しました。

また、図書室では電算化に向けた準備を行うなかで除籍をすすめていることを踏まえ、除籍や選書に関する基準についても、道内の事例などを紹介しながら情報提供を行い、実際に書架の本を見ながら、除籍を行う図書を目安について助言しました。

引き続き、図書室活動の活性化に向けて今年度の支援を行っていきます。



新刊書の展示



除籍する図書の確認

道内図書館キャラクター紹介！

Vol.3

HP や SNS での広報活動のほか、オリジナルグッズの作成などにも力を発揮する図書館キャラクター。道内各地域で活躍中の、個性豊かなキャラクターたちを紹介します！（説明文・キャラクター画像は本の森厚岸情報館からご提供いただきました。ありがとうございます。）



くじらくん

本の森厚岸情報館



くじらくんは好奇心旺盛な男の子。厚岸に昔、クジラが水揚げされていたことにちなんで情報館の建物がクジラの形をかたどっていることから、厚岸在住だった漫画家ウメダシズルさんに依頼して誕生しました。

生年月日は1996年7月27日（情報館がオープンした日）です。

くじらくんのママ

ふだんは、とっても優しいママ。ブックスタートでプレゼントしている木綿のバッグのデザインになっています。



くじらくんファミリー

くじらくんのパパ

体は紫色でメガネをかけています。赤い蝶ネクタイをつけていますが、気分によって色をかえているようです。オキアミ関係の会社で働いているようです。社長という噂も?!?!



くうくん

きょうだいの中で一番下の男の子。体は薄い緑色ですが、どんな風に大きくなるのか、謎だらけの赤ちゃん。

くらちゃん

くじらくんの妹。体はオレンジ色で、とってもおしゃれ。元気はつらつ女の子。毎年開催する、本の森フェスティバルのぬりえで登場しました。頭につけている花はその日の気分で色をかえます。

道内の「図書館キャラクター」情報を

ぜひお寄せください。自薦・他薦問わず大募集中です！

求む！図書館キャラクター情報

特集：こどもの読書週間の行事から

4月23日から5月12日はこどもの読書週間です。

(公財)読書推進運動協議会の行事調査で、北海道読書推進運動協議会(事務局：企画支援課)がとりまとめた市町村立図書館(室)の取組から、ピックアップしてご紹介します。

新型コロナウイルスの感染拡大は続いているものの、少しずつではありますが、図書館で行うイベントも回復してきたように思います。引き続き感染症対策を徹底した上で、次年度以降、コロナ禍以前のように様々なイベントが少しでも多く開催出来ることを願っています。



(1) 工夫を凝らして 展示いろいろ

- 「絵本展 絵本で戦争を考える」 市立留萌図書館
- 「遠い国で起こっていること」 喜茂別町図書館
- 「町内小中学校 POP&読書の木おすすめの本展示会」 今金町民センター図書館



◀ 絵本展「絵本で戦争を考える」 市立留萌図書館

戦争や平和に関する絵本 51冊を児童コーナーに展示しました。

遠い国で起こっていること 喜茂別町図書館▷

ウクライナ問題が起きている中で、「平和」・「争い」をテーマにしたものから日本以外の国生まれの本を展示しました。





◁ 町内小中学校 POP&読書の木おすすめの本展示会 今金町民センター図書室

町内小中学校での図書関連の取組を掲示し、各学校で取り組んだ POP や読書の木の展示を行いました。道立図書館などから自館で揃えられない本を借り受けし、展示に活用しました。

町内の廃校になった学校の記念誌なども展示し、BGM として学校の校歌を流すなど、様々な年代の来場者が楽しめる工夫を凝らしました。



今金中学校「読書の木」展示

(2) わくわくどきどき 読書パック

- 「春は家読（うちどく）！おまけつき読書パック」 佐呂間町立図書館

中央テーブルにテーマカードを配置



職員がさまざまなテーマで選んだおすすめの本 3冊におまけをつけた読書パックを貸出しました。

おまけつき！



(3) 挑戦！体験型イベント

- 「大物をねらえ！本の釣りばり」 栗山町図書館



こどもの日に行われた、「こどもの日だよ！ハッピー！わっしょい！としょかんまつり」のプログラムのイベントの一つ。絵本の表紙を印刷し、釣り上げた絵本を貸出しました。

何のえほんが釣れたかな？

(4) 資料の特性を生かして

- 「これも学習マンガだ！ SHARI こども総選挙」 斜里町立図書館
- 「マンガ・イッキ読みセット」 本別町図書館



◀これも学習マンガだ！ SHARI こども総選挙 斜里町立図書館

日本マンガナイト主催「これも学習マンガだ！」選出漫画を対象として、小学生～高校生に読みたい作品に投票してもらいました（1日1人1票まで）。最多得票作品は全巻図書館で蔵書として購入し、館内閲覧資料とします。

マンガ・イッキ読みセット 本別町図書館▷

所蔵する漫画本をシリーズごとに箱に詰めて一括貸出。対象の漫画本は貸出冊数制限の対象外としました。



(5) テーマに沿って

- 「おしごといろいろ」 おすすめえほんリスト・おはなし会

江別市情報図書館

テーマ「おしごといろいろ」に沿って選書したおすすめえほんリストを作成し、配付。また、同テーマに沿って大型絵本やパネルシアター等を用意し、おはなし会を開催しました。

同じテーマでの
おはなし会も
あわせて開催



(6) チャレンジ！動画投稿

- 「YouTube チャンネル「ほんのたび」動画配信」

帯広市図書館



返却ポストに返却された本の行方を追った子ども向けの動画を帯広市広報広聴課と連携し制作。帯広市図書館公式 YouTube チャンネルで公開しました。



動画はこちら

<https://youtu.be/ntLkHywnl5A>

(7) 創作活動を通して自然にふれる

- 「小寺卓矢スライドトーク&ワークショップ」

新十津川町図書館

写真絵本作家小寺卓矢氏を招聘し、葉っぱのスライドトークや、野外で実際に葉っぱを採集してから好きな色を塗り、版画づくりを行いました。子どもたちは楽しく創作活動に参加していました。

小寺氏が出版している写真絵本をスライドで映し、面白楽しくトーク



自然に親しみながら野外で葉っぱを採集



採集した葉っぱを用いて、好きな色を塗り
版画づくり



■ お知らせ

2022 年春 こどもの読書週間の主な講師等一覧

「2022・第64回こどもの読書週間」開催行事の調査回答をもとに、主な講師一覧を作成しました。今年度も感染症流行下ではあるなか、感染症対策を徹底し、自治体の外から講師を招いて大きな催しを行う例がいくつか見られました。次年度以降の参考にご紹介します。

(1) 講演・講座・ワークショップ

	講師名	事業概要等	実施市町村	実施日
1	小川けんいち (イラストレーター)	としょかんのまどにおもいきり らくがきしちやおう	比布町	5/14
2	岸田典大 (絵本パフォーマー)	絵本パフォーマンスライブ ～岸田典大さんがやって来る!～ (令和4年度地域連携事業「文学館出前講座」)	浦河町	5/22
3	こぐれけいすけ (絵本作家)	こぐれけいすけスペシャル	小樽市	5/5
4	小寺 卓矢 (写真絵本作家)	小寺卓矢スライドトーク&ワークショップ	新十津川町	5/22
5	堀川 真 (絵本作家)	おはなし会(絵本の読み聞かせ、工作体験)	小平町	5/14
6	よしながこうたく (絵本作家)	みんなでつくろう!おえらさんワークショップ	足寄町	5/14

(2) 人形劇・読み聞かせ等

	講師名	事業概要等	実施市町村	実施日
1	クレヨンカンパニー	クレヨンカンパニーの いろいろげきじょう2022	網走市	5/15
2	すぎのこ芸術文化振興会/ 劇団すぎのこ	人形劇団すぎのこ「おむすびころりん」	標茶町	5/28
3	人形劇団ぱべっとグース	親子のためのパペットシアター	恵庭市	5/3
4	人形劇団ブランコ	春の図書室まつり(腹話術と人形劇の公演) (令和4年度地域連携事業「文学館出前講座」)	更別村	5/14

- ・各事業の詳細については、実施市町村へお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- ・読書週間調査は、毎年、春と秋に各市町村にご協力いただき、北海道読書推進運動協議会事務局で集約し、公益社団法人読書推進運動協議会へ提出しているものです(今回は、主に4～5月に実施された行事を対象にしています)。

令和4年度（2022年度）下半期 大会・研修会等情報

令和4年度下半期に開催予定の図書館に関する大会や研修事業等を一覧にしました。
研修等参加の参考情報としてご活用ください。※発行日現在の情報です。

開催日【予定】	事業名	おもな主催機関・団体	開催地（会場）
9月 8～9日	全道図書館新任職員研修会	北海道図書館振興協議会 道立図書館	江別市 (道立図書館)
10月 6～7日 【動画配信】 10/6～11/30	全国図書館大会【オンライン】	日本図書館協会	群馬県 (動画配信)
10月14日	全道図書館専門研修 <サービス（資料保存）>	北海道図書館振興協議会 道立図書館	深川市 (経済センター)
10月 20～21日	北日本図書館連盟研究協議会	北日本図書館連盟	秋田県秋田市
10～11月	全国公共図書館研究集会 (サービス総合・経営部門) 【オンライン】	日本図書館協会	福井県 (インターネット配信)
11月 1～30日	図書館総合展【ハイブリッド】	図書館総合展運営委員会	・オンライン ・会場 (全国に小会場を設定)
11月 16～18日	図書館地区別（北日本）研修会	文部科学省 宮城県図書館	宮城県
11月17日	全道図書館専門研修 <経営（関係法規）>	北海道図書館振興協議会 道立図書館	音更町 (文化センター)
11月18日	全道図書館長会議	北海道図書館振興協議会 道立図書館	札幌市 (札幌市中央図書館)
12月 8～9日	全道図書館専門研修 <サービス（地域資料）>	北海道図書館振興協議会 道立図書館	江別市 (道立図書館)
1月 5～7日	北海道学校図書館研修講座	北海道学校図書館協会	札幌市 (かでの2・7他)
1月13日	全道図書館専門研修 <子ども読書（学校支援）>	北海道図書館振興協議会 道立図書館	江別市 (道立図書館)

・研修についての情報は、次のサイトもご参照ください。

■日本図書館協会 > JLA主催行事

<https://www.jla.or.jp/jlaevent/tabid/93/Default.aspx>

■国立国会図書館 > 図書館員の方へ > 図書館員の研修 ※遠隔研修など

<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/index.html>

・そのほか、道立図書館あてに情報提供のあった研修会等の案内については、図書館ポータルやメールでお知らせします。

『百貨店！』まち文化研究所が自費出版

銭湯・市場・商店・食堂・建物・観光・お菓子・飲みもの・まち雑誌・図書館など各種の「館」…など、文化資源としての「まち文化」の魅力を掘り起こし、記録し、その意味や価値を伝える活動を続けている「まち文化研究所」（主宰 塚田敏信）は、2冊目の刊行物となる「百貨店！」を自費出版しました。かつて、街の中心部を形作り、街の“顔”でもあった道内の百貨店の多くが閉店しています。私たちの身近にあった百貨店の歴史がまとめられた北海道の地域資料（郷土資料）として貴重な記録です。



発行 PR チラシ

『北海道の図書館員が薦めるブックガイド』来春刊行！

北海道図書館研究会（加藤重男実行委員長）と専修大学文学部ジャーナリズム学科図書館情報学研究室の野口武悟教授が、『北海道の図書館員が薦めるブックガイド ーうちの町を知ってもらおうならこれ！ー』の刊行準備を進めています。北海道の魅力を図書館（室）を通じて広報するのが目的で、令和5年春、中西出版から刊行が予定されています。

編集にあたっては、全道の図書館（室）に対し、「地元の魅力を知ってもらおうならこの1冊！」というアンケート（資料の推薦）のご協力をお願いしました。

道内の司書等が北海道の魅力を伝えるブックガイド。出版が楽しみです。

支援活動用資料の譲渡について

前号（No.79）でお知らせした支援活動用資料の譲渡について、まだ「文学」と「児童書」が若干残っております。この資料は、支援貸出事業の大量一括貸出し等で一定の期間市町村で利用され、保存年限を経過したものを除籍し、市町村の図書館（室）を通じて、道民の皆さんにご活用いただくため、無償でお譲りするものです。刊行から15～20年程経過した本ですが、古本市などでご活用いただいています。1箱（30～50冊）から送付いたします。

お気軽にお問合せください。

※ 詳細は本誌 No.79（道立図書館 HP > 道立図書館とは > 刊行物 > その他の刊行物 > あげぼのつうしん）からご確認願います。

例えば…

こんなときは、お知らせください！



- ・施設を新築・改築します
- ・OPACを公開します
- ・電子図書館を導入します

編集後記



特集「こどもの読書週間の行事から」いかがでしたでしょうか。例年、こどもの読書週間に関する取り組みの中からピックアップして紹介していますが、紹介した取組の他にも、世界情勢を反映し、戦争や平和に関する資料展示の取組が今年は多く見られました。特集をまとめる最中、戦争を扱った物語ではありませんが、『希望の図書館』（ポプラ社 2019）を思い出しながら編集を進めました。そのタイトルや内容のとおり、好きな本を自由に読める環境を守り、図書館が少しでも生活の中での希望となるよう頑張らねば、と改めて思う今号でした。



企画支援課では、みなさんの図書館（室）の活動の情報を集めています。好評だった事業、新しく始めた取組、ホームページのリニューアルなどなど、いつでも受け付けています。

『あけぼのつうしん』読後の感想も歓迎します。よろしくお願ひします。

shienka@library.pref.hokkaido.jp

※ 紙面の都合により、本文中の敬称を省略させていただきました。

あけぼのつうしん No. 80

発行日 令和4年（2022年）9月2日

編集 北海道立図書館総務企画部企画支援課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521

FAX 011-386-6906

ホームページアドレス <https://www.library.pref.hokkaido.jp/>